

映画史～邦画を中心として～

堂前大樹

序

1. 映画誕生
2. エジソンの「キネトスコープ」
3. 日本での映画初上映
4. 日本映画文化のあけぼの
5. 「十三人の刺客」監督：工藤栄一

考 察

序

誰もがDVDや映画館等で見たことがある「映画」という文化がどのようにして生まれたか、また日本ではどのように映画が馴染み深いもの、生活の中に浸透していったかの映画史について述べる。

1. 映画誕生

そもそも映画という言葉が生まれる前は「写真活動」と呼ばれていた。その原点となったとされるものには2説ある。第1の説は、約200年前の1895年、フランスのリムュエール兄弟によって発明された「シネマトクラブ」を起源とするものである。もう一つの説はあの発明王であるエジソンが発明した、洗濯機ほどの大きさでのぞき穴からみる「キネトスコープ」というものである。アメリカのニューヨークでは「キネトスコープカフェ」が大ヒットした。他にも17世紀から18世紀にかけてヨーロッパでは映写機の原点といわれる、「マジックランタン」やパラパラ漫画を本格的に見せる装置「ゾ

ーイトロープ」なども映画の原点となったと言われている¹。

このように映画の原点とされるものは諸説あるが現代の「映画」といわれる形になったものに大きな影響を与えたとされるのはエジソンの「キネトスコープ」である。そこでもう少し詳しくこの「キネトスコープ」についてみていきたい。

2. エジソンの「キネトスコープ」

1888年に発明王エジソンは世界初の映画スタジオ「ブラックマリア」を建設し世界初の映画カメラ「キネトカメラ」（ちなみに映画カメラの原点とされるものに「写真銃」というものがある）によって映画を撮影した。この10年程前ほどにはイギリスの写真家エドワードマイブリッジによって映画の撮影が確立されており「ブラックマリア」では主に映画製作そのものに重点をおかれ研究されていた。前述したが、ついに1894年に「キネトスコープ」という大きな装置が開発され、ブロードウェイで「動く写真」として一般公開された。しかし今のように大きなスクリーンというわけではなく1回に1人しかみることができないため何台かおかれた。このキネトスコープは当時、300ドルで買いとることもできた。

1905年にはアメリカに本格的な映画館「ニッケルオデオン」（名称はニッケル硬化1枚で見れたことに由来する）が登場し「映画」はついに20世紀最大の娯楽として我々の日常に定着することとなる。では次に日本ではどのようにして映画が伝わったかについて触れていく。

3. 日本での映画初上映

日本では映画初上映した地域についていくつかの説がある。

¹ Masana, Inc. 「映画誕生の歴史」『週刊シネママガジン』〈<http://cinema-magazine.com/p/226>〉2014年11月9日最終アクセス。

大阪説

大阪ではフランスの「シネマトグラフ」を起源としており、1897年に稲畑勝太郎によって南地演舞場（後の TOHO シネマなんば）で初興行が行われたとする説がある。これは現代の映画館の形に一番近いもので、チケットを購入し、入り口で半券を切ってもらい、暗くなってスクリーンに映画が映し出されるものだった。

京都説

1896年に稲畑勝太郎によって鴨川の四条河原近くの京都電燈株式会社の本社にて試写会が行われた。京都では大阪で行われる1年前に映画が上映された。

神戸説

神戸ではアメリカ発祥とする「キネトスコープ」を起源とし、1895年には上陸しており、花隈の神巷倶楽部で興行されたが、キネトスコープの特性上、映画館というものではなかった²。

4. 日本映画文化のあけぼの

日本で初めて映画が製作されたのは、1898年の浅野四朗による短編映画である「化け地蔵」と「死人の蘇生」である。ここから日本の映画文化が本格的に始まった。

まず、日本に映画が大きく広まった理由の一つとしては日本人の識字率の高さが大きく関係しているとされている。二つ目の理由としては昔から大衆で何かを鑑賞するという文化、例えば人形浄瑠璃や歌舞伎などが映画誕生前に根付いていたためだとされる。この2要因が大きく作用して日本に映画が娯楽の1つとして認識されるよ

² cinelibre.jp「日本の映画の歴史」『超個人的ミニシアターまとめサイト』
〈<http://www.cinelibre.jp/cinema/rekishi.html>〉2014年11月14日最終アクセス。

うになった。

また、戦時中の日本ではアメリカに次ぎ、映画製作数が世界2位であり、年間500本ほどが製作されていた。

最後に映画黄金期の映画について、監督とその作品について触れていくことにする。

5. 「十三人の刺客」 監督：工藤栄一

この監督ほど「光と影の演出」にこだわった監督はいないといわれる。この作品は白黒映画であり、1963年の東映京都撮影所作品であり、戦前から長く続く時代劇映画の傑作の一つとされている。戦後時代劇の金字塔といわれる黒澤明監督の「七人の侍」をお手本にして製作された。この少し前に「十七人の忍者」という作品で集団時代劇というものが生まれ、「十三人の刺客」によってジャンルとして広まった。また2010年にはリメイク版が三池崇史監督によって製作された³。

考 察

「邦画」は現代日本人には娯楽として当たり前のものとなっているが、その背景的要因には日本に元から存在した映画に親しみやすい文化があった。このため急速に映画が広まり、現在でも多くの人々に親しまれるようになったのだといえる。

また、今回は邦画を中心としたが、洋画については今後の検討課題としたい。

³ 奥田均『映画学 第2版』（学術図書出版、2010年）第3章（23-24頁）